

2月6日(土)の心理学総論特論の授業の時間を用いた研修会は、伊勢崎キャンパスのある伊勢崎市に緊急事態宣言が発出されている最中に、全ての心理学部教員について原則伊勢崎キャンパスにて対面で受講するように指示を受けて行われた。

2月6日(土)の研修会における学ぶべき内容は、1月30日(土)の研修会における学びの内容とほぼ同じであると思った。定刻である13時10分に授業が開始され、最初に総長が自身の考えと体験を話した。現在の公務員試験ではパズルみたいで変な問題（判断推理）がでること、フォーダム大学での統計学の授業は小数点まで出すため非常にややこしいこと、アメリカ人は数学が弱いことから授業では総長が一番できると総長自身は思っていたこと、英語で統計を学ぶとこんがらがること、ウィズドローによってF評価は回避できたがA評価はもらえなかったこと、臨床心理士試験に合格するためには授業中に理解をして暗記してでもよいが1日中暗記して1年間それだけを必死にやるしかないこと、東京福祉大学は夢を売る大学であり、偏差値が低いトップクラスの学生ではない子が入ってくること、高校までは優秀でなくても東京福祉大学に入れば夢がかなう大学にしたいこと、確認テストの満点に満足せず、空いている時間も頭に入れることをすれば臨床心理士も公務員も保育士もすべて受かること、一般企業は状況によって内定取り消しがあるが公務員は内定取り消しや給料未払いにならないこと、公務員は天下りがあること、公務員になると得をすること、東京福祉大学は資格試験に合格するための対策講座を授業の中でやっていることから余計なお金は取らないし塾に行かなくてよい分余分なお金を払わなくて済むこと、東京福祉大学に来て勉強して賢い子になればエリートになること、以下、総長が苦労してきたことを紹介すること、15年かかって36歳の時に専門学校を作ったがただの法学部を出ただけでは本物の教育者になれないためアメリカに行ったこと、サンシャインシティ59階でチェアマンとマンツーマンで話をしてフォーダム大学への入学許可の協力を得たこと、英語コースの試験をパスしてTOEFLを受けずに入ったこと、そのチェアマンが辞めてどっか行っちゃったからいじめられたこと、37歳で修士号を41歳で博士号をとったこと、その時のスタティスティックスで総長がやった時のように朝から晩まで何回も何回もやった方が臨床心理士試験に合格すること、アメリカのディーンがしゃべる英語は素晴らしいスピーチでわかりやすいこと、死に物狂いで勉強したら賢くなったこと、臨床心理士は深い意味で人生に影響すること、臨床心理士は細かくアドバイスをすること、臨床心理士は相手の意思を聞いて正しいわかりやすい日本語できちんと言ってあげることが求められること、その前に臨床心理士になるには試験に受かるために死に物狂いで勉強して人生を入れ替える、（総長研修会で教えられている）こういう勉強をして頭よくなってもらいたいこと、東大や一橋大をでても役に立たないのが大勢いること、（東京福祉大学に入学している）今なら優秀な頭脳になれること、総長は37歳から42歳までフォーダム大学に行って優秀な頭脳になったこと、優秀な頭脳になるためには公務員を受けて受かること、総長が指導した事務職員は文章がうまくなったこと、教員もレポートを欠かされて文章が上手になったこと、それにより生活も落ち着いたこと、が13時47分まで総長により話された。その後、担当教員がこれまでの学び通りに授業を展開した。その間、総長は14時25分に退室

し、16 時 13 分まで不在であった。総長不在の間も担当教員はこれまでの学び通りに授業を展開していた。

資格取得を目指して本学に入学する学生にとって、資格試験に合格することは重要事項であることは間違いない。今回の研修会が行われた心理学総論特論の受講生は、3 分の 2 以上が現在職業をもっている通信教育課程に在籍する学生であり、仕事の合間を縫って臨床心理士として現場に立つために必要な勉強と修士論文作成のための研究を必死にしている学生である。彼ら彼女らが必死にやっていることを支え、臨床心理士試験合格の一助を担うことができるよう、教員としてなすべきことをできるように勉強し、力を尽くしたいと思った。